

エ EMERALD 「脆弱国における 持続的栄養改善と国際社会の役割」 持続的栄養の目覚めシリーズ



ANNUAL REPORT

AUGUST

08

^{令和3年度} 事業報告書





コロナワクチンと公明党:公明新聞1面

8月1日付の公明新聞朝刊に白須代表のコメントが掲載されました。コロナワクチンの開発と供給のアドボカシーに携わってきた立場から公明党の貢献と今後の課題について意見を述べています。



1面に大きく掲載されています。



こちらがコメント部分です。

白須代表は日本政府が COVAX にいち早く参加を表明した背景には、「山口那津男代表を先頭に公明党が一丸となって COVAX の重要性を訴えて下さったことが、政府の決断につながりました」と評価。「さらに今年6月に開かれた COVAX ワクチン・サミットでも、公明党の要望に沿う形で、菅義偉首相が途上国支援のため従来の2億ドルに加え、8億ドルの追加拠出を表明」し、COVAX は約190か国・地域が加入する、ワクチン供給の国際協調を牽引する枠組みになったことを紹介しました。

その上で今後の課題として、国産ワクチン開発の推進を挙げました。日本はノーベル医学賞、化学賞などの受賞者を多く輩出しているにも関わらず、まだ国産ワクチンが承認されていないことを指摘。1日も早く国産の優れたワクチンが供給できるよう、党をあげて後押しいただきたいと述べています。

運動靴輸送に向けた取り組み

現在、日本リザルツでは運動靴輸送に向けた最終準備が行われています。

今回は 2.5 トン、5,000 足あまりの運動靴をロータリークラブ・ナイロビ・イーストを通じて、ケニアの貧しい子どもたちに寄贈させていただきます。ケニアでの配布に際しては、このロータリーの会員でもある元駐日ケニア特命全権大使、現トヨタケニアのデニス・アウォリ CEO にお力添えをいただいています。アウォリ CEO は日ケニアの友好関係強化に長年に亘って取り組まれており、先日、旭日重光章を受章されました。

新型コロナウイルス発生後、ケニアでは感染拡大防止のため、一時衣料品、中古運動靴の輸入が禁止されましたが、ケニアの基準を順守することで運送が可能になりました。安全に輸送できるよう、検品や事前の消毒(燻蒸)など、取り決めに従って準備を進めています。

物を輸出、輸入するのに多くの人が携わっているということを改めて実感しました。 日本側の運動靴検品、梱包などは、スタッフ、ボランティアさんによって1つ1つ行われています。

皆さんの善意が、確実にケニアの子どもたちに届くよう、しっかりと準備をしていきたいと思います。

ボランティアの皆さんの力

東京オリンピックで活躍しているのがボランティアの皆さんです。

テレビでは決して映らないボランティアの皆さんの献身的な姿が、Twitter で紹介され、海外で話題を呼びました。

ボランティアの皆さんの思いやりの精神は、海外では真摯な姿として映っているようです。

日本リザルツも、ボランティアの皆さんのサポートにより支えられています。

今週の8月6日に開催予定の第4回「栄養の目覚めセミナー」の準備で活躍されているのは、ボランティアのTさんです。

2

彼女は管理栄養士で、なんとオリンピック期間中は、選手村のお食事のお世話と、掛け持ちで ボランティアをしてくださっています。

ちなみに、ケリー・マクゴニガル教授(スタンフォード大心理学)は、ストレスとうまく付き 合う方法の一つに、ボランティア活動を挙げています。

また、ボランティア活動等を通して、より人とつながりが深められたり、自信につながったご 経験はなかったでしょうか?

ボランティアは自発的な精神活動にもつながります。

明日をより良く丁寧に生きるボランティアさんが増えると嬉しいですね

2021年08月05日

国際連帯税に関するアンケート結果(第1回)



●拡大する高所得国と低所得国とのワクチン格差

WHO は4日、コロナワクチンの3回目の接種につき、低所得国等でワクチン不足から9月末まで中止すべきと見解を出しました。実際、人口1人当たりのワクチン購入量は、カナダ10回強、英国8回などですが、アフリカ連合はわずか0.36回という状況です(8月5日付日経新聞)。しかし、高所得国はWHOの見解に構わず接種を行おうとしています。

低所得国などの支援への圧倒的な資金不足と特許の壁がグローバルなワクチン格差を招いています。前者の役割を担おうというのが国際連帯税であり、その実現が望まれるところです。

●国際連帯税に関するアンケートの結果

さて、先日国際連帯税に関するアンケートをお願いしたところ、386人からのアクセスがありまして、具体的な回答を38人の方からいただきました。まことにありがとうございます。皆様の貴重なご意見、アイデアについては今後の国際連帯税活動の参考にさせていただきます。

なお、今回アンケート結果を第1回としたのは、これからもどしどしアンケートを実施し、みなさんのご意見等を聞いていこうと思っています。以下、結果についてご報告しますので、よろしくお願いします。

【Q1】国際連帯税に賛成ですか?

・賛成 81.6% ・反対 5.3% ・どちらでもない 13.2%

【Q2】賛成/反対/どちらでもない理由は?

1) 主な賛成理由:

①不勉強なのですが…、気候危機にせよパンデミックにせよ、先進国だけで解決できる問題ではありません。そもそも先進国がその拡大により多くの責任がある事だと思います。先進国のリーダーシップや技術移転、資金援助のような上から目線の対策ではなく、フラットな関係で共に問題に取り組むためには国際連帯税のフレームがいいのではないかと考えました。

②以下は、http://isl-forum.jp/archives/3212 を参照

2) 主な反対理由:

- ①意図は賛成できますが、徴収手段の構築が難しいと思います。
- ②以下は、http://isl-forum.jp/archives/3212 を参照

【Q3】あなたの性別は?

・男性 65.8% ・女性 28.9% ・その他 5.3%

【Q4】あなたの年代は?

・10~20 代 7.9% ・30~40 代 34.2% ・50~60 代 39.5% ・70 代以上 18.4%

【Q5】主なアイデア・ご意見について

- ① 賛同する NGO・NPO の世界的合流を通じ、国際連帯税の根拠となる国際条約成立の実現を目指し、取組みをより一層強化する。
- ② 反対の立場に立ち得るステークホルダーの中から理解者や協力者を得て、幅広く捲き込んでいくことが、強硬な反対意見へのプレッシャーになっていく。
- ③ 以下は、http://isl-forum.jp/archives/3212 を参照

栄養の目覚めシリーズ第 4 回「脆弱国における 持続可能な栄養改善と国際社会の役割」

明朝7時30分から開催する栄養の目覚めシリーズ第4回「脆弱国における持続可能な栄養改善と国際社会の役割」の準備は、インターンの3人の学生さんが分担して行っています。

通常、インターンさんが職員の代わりに重要な職務を行うことはあまりないかと思いますが、 日本リザルツではインターンさんも重要な職務を行っています。職員だと一人が担当する業務 ですが、インターンさんは毎日出勤されるわけではありませんので、今回はインターンさん3 人が協力して準備をしています。

若い方ばかりなので、白須代表や栗脇副代表がいろいろと指導していますが、優秀な学生さん たちなので、よくやっておられます。

ここでの経験が社会人なってから役立ってくれることと思います。

2021年08月06日

新型コロナ:パンデミック対策の見返り

- 欧州でのワクチン供給

東京オリンピック期間中において、新型コロナウイルスまん延が深刻化しています。また世界 においても、同様の状況が続いています。 如何にしてパンデミックを封じ込めるかが、今後の焦点になりそうです。

以下、2021年8月1日日経ヴェリタス紙より、抜粋しています。



EU 本部のあるベルギーに本拠地を置くシンクタンク、ブリューゲル所長のガントラム・ウルフ氏の、欧州主導のワクチン供給についての寄稿です。

ウルフ氏によると、自身が携わった G20 財務相会議への報告書には課題があり、パンデミックの予防、準備、対応への資金提供に焦点があるものの、監視機能の向上、各国の保険制度の改善、重要な医療対策とツールの提供に見積もられた年間 150 億ドルが控え目であると、指摘をしています。

IMF(国際通貨基金)によると、世界的なワクチン接種の加速は、9兆ドルの収入を失うことを回避でき、コストは、数百億ドル程度で収まるそうです。

欧州はパンデミック克服のために、資金面ですでに貢献していますが、短期的により多くのワクチンを購入・配布を通して、世界的な取り組みを支援することが、欧州では産業拡大の機会を得ることにつながると、ガントラム・ウルフ氏は述べています。

新型コロナのパンデミック対策は、低コストで見返りもとても大きく、社会的にも信頼が得られ、かつ、ハイリターンを得られる投資活動なのだと実感しました。

オリンピックの祭典と黙とう

今月3日の東京新聞に、7月23日に催された東京五輪開会式で、1923年のミュンヘン五輪開催中に殺害されたイスラエルの選手とコーチ、11人への黙とうがささげられたという記事が掲載されていました。

オリンピックという「平和の祭典」の場で、悲惨な事件があったことは変えられない事実です。しかし、事件から 49 年経った現代においても、事件を風化させないようにする試みは大変意義深いことだと思います。

一方、今年5月にはイスラエル軍により、パレスチナ自治区へ11日間にわたる空爆等が行われ、多くの方が亡くなりました。各国がこの問題を見て見ぬふりをせず、オリンピックのように世界一丸となって解決の方向に向かうことを願っています。

今後もパレスチナ自治区、またガザ地区についてブログアップを続けていこうと思います。 「平和」を願いつつ、五輪を楽しみます。

第4回栄養の目覚めセミナー「脆弱国における 持続的栄養改善と国際社会の役割」の開催に ついて

本日 8 月 6 日(金) 7:30~8:30、ホテルルポール麹町にて、第 4 回栄養の目覚めセミナーを開催 いたしました。

国連 WFP 栄養部門ディレクターのアンナ・ホーナー様に基調講演を、国際医療福祉大学副学 長の鈴木康裕様にモデレーターを務めていただきました。国会議員、官庁、民間、国際機関等 から 30 名の参加がありました。



国際母子栄養改善議員連盟事務局長の今井絵理子様(参議院議員)、国連 WFP 議員連盟幹事長の猪口邦子様(参議院議員)にご挨拶をいただき、セミナーが開会しました。

アンナ・ホーナー様のオンラインによる基調講演では、栄養に関する脆弱国での現状、WFP の 役割、資金援助の必要性等についてお話をいただきました。





質疑応答では、他機関との協働や、コロナ禍での人道・開発支援における困難について質問が上がり、ホーナー様が丁寧にご回答をくださいました。また、外務省国際保健政策室長の江副 聡様からは 12 月に行われる東京栄養サミットの進捗状況についてのご発言もありました。



鈴木先生からは、基調講演後のコメントとして、栄養不良に関する子どもへの影響は一番大きいということ、栄養問題は自然科学分野だけではなく社会科学の面からも解決の糸口があるということ等を述べておられました。

最後に、内閣府副大臣の三ツ林裕巳様(衆議院議員)や復興副大臣の横山信一様(参議院議員) に閉会のご挨拶をいただき、本セミナーは盛会のうちに終了いたしました。



ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

ミャンマーで感染拡大:さらなる人道的支援を

久しぶりにミャンマーのことについてブログを書かせて頂きます。

今年 2 月 1 日に起きたミャンマー国軍による国家クーデターから、早くも半年以上が経ちました。

クーデターからちょうど半年となる先週 8 月 1 日には、国軍最高司令官のミン・アウン・フライン氏がミャンマーの暫定首相に就任することが発表されました。今日までに、犠牲者は 940 人以上を数え、未だに 5,500 人以上が逮捕されています。

国軍の圧政に苦しむ国民を思うと胸が痛みますが、今私が特に懸念しているのが、新型コロナウイルスの感染拡大です。6月ごろのミャンマーでは、1日当たりの新型コロナウイルスの感染者数は約100人ほどで推移していましたが、7月に入り、感染者数が急増。22日には、過去最多となる6,701人の感染者が報告されました。クーデターが起こって以降、多くの医療従事者や公務員が、業務を放棄して国軍に抵抗する「不服従運動」に参加していることから、感染者の多くが自宅療養を余儀なくされています。しかしながら、国民がより苦しい状況下に置かれているにもかかわらず、国軍の介入により、医療用の酸素ボンベは人々の手に行き届いていません。

これまでに国軍の直接的な暴力により多くの犠牲者が出てきましたが、今後は国軍の悪政によってさらに国民が苦しめられることになりそうです。こうした状況を打開するには、やはり他国からの人道的な支援が欠かせません。その点、先月決定された日本政府による諸国連機関(UNHCR、WFP、UNICEF)への資金協力を通じた支援は、とても重要であると思います。今日のミャンマーにおけるコロナ感染拡大も踏まえて、日本政府には今後とも人道的観点からのミャンマー国民への支援をより一層強めて頂きたいと思います。

五輪マラソン金メダリスト・キプチョゲ選手は GPE の応援団

東京オリンピックは今日が最終日。

男子マラソン競技が実施され、世界記録保持者でリオデジャネイロ五輪王者であるケニアのエ リウド・キプチョゲ選手が 2 時間 8 分 38 秒で金メダルを獲得しました。

過酷な気象条件の中、30 キロすぎから圧巻の独走劇を見せ、オリンピック二連覇を成し遂げま した。同種目での二連覇はアベベ選手などに次ぎ、3人目とのことです。

ケニアではスーパースターのキプチョゲ選手。ケニアでは深夜でしたが、レースは TV で中継され、多くの方が見ていたようです。

そんなキプチョゲ選手は日本リザルツが連携している教育のためのグローバルシップ (GPE) の 応援団です。先日は自身のツイッターにメッセージを寄せられ、「手をぴんと挙げた」姿を披露 されていました。

GPE 日本版の公式ツイッターでは、日本のサッカー選手である長谷部誠選手やオリンピックメダリストのマラソンランナー有森裕子さんのメッセージも紹介されています。尚、このアカウント内では、アスリートの皆さんに負けじと、霞が関の魔法使いどーらも思いっきり手を挙げています。

アスリートの皆さんの応援を勢いに変え、GPE への取り組みがますます加速することを期待しています。

第4回「栄養の目覚めセミナー」の開催を振り 返って



日本リザルツが全 5 回シリーズで開催している「栄養の目覚めセミナー」の第 4 回が無事終了しました。これまで目覚めセミナーの準備は、職員がメインで行っていましたが、今回は大学生のインターン 3 人(杉田、石川、園田)が中心となって行いました。



特に大変だったのは、段取りでした。私は、どちらかというと大雑把な性格で、細かな役割分担を考えるのがとても苦手です。そのため、業務が二度手間になってしまうことや、業務の優先順位を考えられないなどの寄り道を繰り返してしまいました。セミナー前日には、バタバタして印刷作業を行ったり、忘れ物をしてしまったりと、最後の最後までトラブルが起こり続けてしまったのが現状です。

振り返ってみると反省することの方が多かったですが、良かったこともありました。それは最後まであきらめないことの大切さを学んだことです。国会議員の先生方へのお声がけは、FAX や電話を使って丁寧に行いました。ボランティアの谷頭さんは、お仕事の間隙を縫ってオフィスにお越しいただき、参加者呼びかけに協力してくださいました。

その結果、セミナーの3日前にはさらに多くの先生にご参加頂けることになり、先生たちのご挨拶やコメントのお陰で盛況のうちに会を終えることができました。頑張ったことが結果としてつながったことが達成感につながり、喜びを皆で共有することができました。



最後に今回のセミナー開催を通じて感じたのは、1人では何もすることができないということです。セミナー当日の準備には、いつもお世話になっている企業の関係者の皆さんがお手伝いをしてくださいました。また、今回モデレーターをお務め下さった国際医療福祉大学副学長の鈴木康裕先生には、進行用の台本で記載しきれなかった部分を臨機応変にご対応いただきました。ボランティアの谷頭さんはお仕事があるにも関わらず、困った時に快くお手伝いをいただきました。こういった色々な方の陰の支えによって、無事にセミナーを開催することができました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

今回のセミナー開催準備を通じて、大切なことを多く学ばせていただきました。 今週から議事録の作成を行います。皆で心のこもった議事録を作成できたらと思います。

運動靴の船積み作業ー

シッピングマークの貼り付け

今月末、いよいよ、スナノミ症対策の寄付の靴の最終便が発送されます。

そこで、本格的に、会議室山積みの段ボール 207 個の、船積み準備が始まりました。 シッピングマークと呼ばれるものを箱に貼り付ける作業です。これは、貿易ではとても大事なの です。

船では、いろいろな貨物が一緒に積まれてしまうので判別できるようにしないと、相手国に届きません。

作業に際しては、先週金曜日の栄養目覚めセミナーで忙しかったインターンの皆さん、ボランティアさんが会議室に集まってくださいました。

207 個もある箱を前に、皆さんで冷静に知恵を振り絞りながら、集中して作業を実施しました。 箱の番号と貼り付けるシッピングマークが異なると輸送の際に問題が起きるため、声を掛け合 いながら、1つ1つリストと箱の番号、貼り付けるナンバーを確認します。



会議室は、なかなかクーラーが効かず、汗だくになりました。皆さんのお陰もあり、なんと3時間の作業で、無事に全て完了しました。

その後は、ランチを皆で美味しく楽しくいただきました。



東京オリンピックは終わりましたが、アスリートに負けないくらい、いい汗をかきました。 お疲れ様でした。

2021年08月13日

東京パラリンピック

東京オリンピックが終わり、パラリンピックが 24 日から始まります。 首都圏は無観客観戦が決まっています。

パラリンピックの歴史が気になり調べてみました。日本パラリンピック委員会によると、パラリンピックの原点は、第二次世界大戦で負傷した兵士の治療と社会復帰のための取り組みでした。 イギリス・ロンドン郊外の病院において、そこで治療にスポーツが取り入れられ、車いす患者の アーチェリー大会が開かれたのがきっかけです。

これを原点として、国際大会として発展したそうです。

2020 東京大会では「多様性と調和」がひとつのビジョンとして掲げられています。 コロナを含めた様々な国際問題が起こる 2020 年-2021 年ですが、オリンピックに続き、パラリンピックでも、選手の姿を通じ、この多様性と調和について、まさに考え実感させられるのだろ

うと思います。テレビでの観戦を今から楽しみにしています。

お盆休み

日本リザルツは8月12日~16日はお盆休みとなっております。

世の中の大方の組織もお盆休みかと思います。

日本リザルツのボランティアは週2回~3回、それぞれが決まった日にちで出勤しているため、 12日は作業を行いました。

オフィスに1人でおりましたが、途中外部の方からの電話がありました。

オフィスの建物設備の管理会社さんからでした。

こちらから空調設備のクーラーの効きが悪いようなので、業者さんに確認していただいたのですが、空調設備の室内のフィルターはテナントが清掃することになっているという話になりました。

しかし通達もなく、管理会社さんからは必要に応じ各テナントに口頭で説明しているのみと伺いました。

家庭用の空調設備と違い、オフィスの空調設備は天井埋め込み型で説明書も手元にはありません。

そのような状況で「フィルターの清掃をしてください」と言われても、当方としては素直に[はい]とは言えません。

このやり取りを通じて、改めて、相手の立場に立って物事を進める大切さと、相手が気持ちよく動けるように配慮することが大切だと思いました。

2021年08月15日

運動靴配布:学校はどんなところ?

東京では運動靴の出荷に向けた準備が行われていますが、ケニアでも受け入れに向けた動きが 進んでいます。

昨日は、ロータリーナイロビイーストさんの活動に帯同し、運動靴を配布する小学校を視察して t 。

訪問したのは、マクウェニカウンティという乾燥地域の山間部にある Masokani Primary Schoolです。

なんと、行きは3時間、帰りは5時間以上の真夏の大冒険でした。

最初は幹線道路を走っていましたが…



どんどん道が細くなり、舗装もなくなり…



しまいには、川を上ってくことに。ちなみに雨季は水かさが増すので、この道路?は使えなくなります。



学校につきました。学校があるのは山の上で、子どもたちはこの山道を片道 1 時間近く、歩いて通っています。また、コミュニティにあるのは小さな診療所だけ。病気になった場合は半日かけて街の病院に行く必要があります。



およそ 180 人の子どもが通っています。



電気はありません。

学校があるコミュニティの皆さんは、世界銀行が定める「1 日 1.25 ドル未満で暮らす人」=最 貧困層です。棚田のような小さな畑で野菜を育て、ヤギやニワトリを飼うという正に自給自足の 生活をされています。山間部なので農耕地は小さく、大規模農業はできません。

最低限の食べ物は得ることができますが、貨幣収入がないため、1 日 100 シリング(100 円)で 生活しているということです。このため、授業料、医療費などを支払うお金を工面するのに非常 に困っているそうです。

この日は、まず、貯水タンクとトイレの贈呈式が行われました。

乾燥・半乾燥地のマクウェニカウンティでは水の確保が深刻な問題です。雨季以外は水が足りないので、近くにあるタナリバーの支流まで水を汲んだり、洗濯をしにいったりする必要があります。山の上の学校から川は遠いため、雨水を貯めて使用していますが、タンクの数が十分ではありませんでした。



そこで大きな貯水タンクを設置し、より多くの水を貯められるようにしたのです。





また、学校は築 60 年。創設当初からあったトイレは老朽化で大破してしまったため、改修が必要でした。





こちらが古いトイレです。男子生徒も女子生徒も同じトイレをつかっていることも問題になっていました。



そのため、トイレを新たに立て直し、男女別々に利用できるようにされたそうです。アクティビ ティも行いました。



この中では、子どもたちとロータリーの皆さんで、黒板の塗り直しをしました。日本で使われているボードのような黒板は非常に高く、公立学校では購入する余裕がありません。壁を黒く塗り、そこを黒板として使っているのです。



子どもたちは、日本人はもちろん、アジアからのお客様は初めて。

東京は寒いの、暑いの?

日本の子どもの教育システムはケニアと一緒?

日本人は何を食べているの?



ランチタイムも子どもたちからの質問が殺到しました。



子どもたち、先生、ロータリーの皆さんの笑顔が素敵で、パワーをいただいた1日でした。 日本の皆さんの善意がきちんと届くよう、皆さんと連携して準備を進めていきたいと思います。 活動に帯同させていただいたロータリーの皆さん、ありがとうございました。

ハイチで M7.2 の地震発生



8月14日午前8時29分(日本時間:同日午後9時29分)に、カリブ海の島国ハイチでマグニチュード7.2の地震が発生しました。読売新聞によると、現在確認されている犠牲者は少なくとも304人に上り、1,800人以上の負傷者が出ているとのことです。

ハイチは、11年前の大震災の際に結核のまん延が深刻な問題となりました。

そこで、日本リザルツでは、栄研化学㈱と連携し、結核患者発見拡大プロジェクトを実施し、患者の早期発見につなげました。

また、定期的に募金活動を実施するなど、とても縁のある国です。

今回の地震は、11年前にハイチで30万人以上が犠牲になったものよりも大きく、胸が痛いです。

引き続き最新の情報はブログアップしていきます。

2021年08月16日

UNRWA 本部と清田氏とのオンライン会議



8月11日水曜日の午後に日本リザルツと UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)の清田保健局長、及び関係者とのオンライン会議が開かれました。私も出席をさせていただきました。

日本リザルツと UNRWA の連携は長年に亘って続いており、トランプ政権時代には UNRWA への資金が凍結したときも、白須理事長が各関係省庁へ働きかけを行い、日本から支援がなさ

れたことが大いに助けとなったと、UNRWA の本部の方や清田先生が感謝の意を述べられておられました。

オンライン会議は、ときおり音声のノイズがありましたが、画像など不便さを感じさせること はほとんどありませんでした。

現在 UNRWA の保健局長をされている、清田先生は、WHO でも活躍をされていて、自身の著書において、パレスチナ難民の栄養問題に触れています。

会議に参加するにあたって、この本を読みました。この本で述べられていることは、先日好評でした第4回栄養セミナーでも、「支援」とは何かという観点が盛り込まれていました。

それは「本当の支援は、そのヒトたちの、その地域のヒトが、自分たちで栄養を理解して、食べ物をつくり、バランスの良い食事で健康な食生活を送れるようにするのが、本当の支援」だということです。

清田氏の著書によると、パレスチナでは、甘い嗜好品を好む傾向があり、糖尿病にかかりやすい状態であると指摘があります。

また、失業率が高く貧困状態であることも、栄養問題の原因となっていると述べ、清田先生は 若者の起業を支援し、経済を活性化させることも問題解決になると提唱されていました。ガザ やパレスチナ難民の現状を知っている清田先生のご意見は、非常に興味深かったです。

最近では、中東でも IT ベンチャーが成長しています。

戦争の歴史や、過去は変えることはできませんが、自分たちが理想とする社会、未来を生み出 すことは可能です。

次の時代を担う世代の皆さんのためにも、日本リザルツが実施してきた草の根の地道な取り組 みが、明るい未来につながることを願っています。

運動靴がオフィスを出発!

19日に5,072足、およそ2.5トンの運動靴がオフィスを出発しました。

横浜港に向けた輸送に際し、朝早くから職員、インターンはもちろん、ボランティアの皆様のお 力添えもいただきながら、トラックへの積み込みを行いました。

いつもお世話になっている五十嵐様から積み込みの様子のお写真を共有いただいたので、その 様子をご紹介したいと思います。





こちらはオフィスでの出荷の様子です。





力持ちの業者さんのサポートもあり、あっという間に積み込みは終了しました。





無事に207箱の段ボールが横浜港に到着しました。



インターンの園田さんは積み込み後、到着場所まで行って、通関業者さんと箱の数を目視で確認してくれました。運動靴は 8 月末に横浜港を出港し、10 月にはケニアのモンバサ港に到着する予定です。

ケニアの子どもたちが楽しみに待っている運動靴。確実に届けられるよう、準備を進めていきたいと思います。

そして、お忙しい中、お手伝いをしてくださった田島様、三浦様、チーム五十嵐の皆様、本当にありがとうございました。

アフガニスタン情勢悪化で心配される女子教育 への影響

アフガニスタン情勢が緊迫しています。

先日、G7 外務・開発大臣会合が開催され、事態打開に向けた議論が始まりました。日本からは 茂木外務大臣が出席されました。

以下、外務省の報道まとめです:

- 1. 冒頭、本年の G7 議長国である英国のドミニク・ラーブ英国外務・英連邦・開発大臣兼首席 大臣 (The Rt Hon Dominic Raab MP、 Secretary of State for Foreign, Commonwealth and Development Affairs and First Secretary of State of the United Kingdom) から、アフガニスタン 情勢をめぐる英国の立場について説明がありました。
- 2. 続いて、G7 外相間で、現下のアフガニスタン情勢に関する評価や、アフガニスタンからの 出国を希望する人々の退避、人道支援、人権、テロ対策等の課題、また今後の展望等について、 率直な議論が行われました。
- 3. 茂木大臣からは、アフガニスタンからの出国を希望する人々の安全な退避が最も重要な喫緊の課題であること、人道危機の回避に手を尽くすべきであり、アフガニスタン国内における人道支援機関の要員の安全、アクセス、活動の自由の確保が重要であること、地域の安定やテロ対策の観点からも近隣諸国を含む幅広い国々と連携していくことが重要であることなどを指摘しました。その上で、G7として引き続き緊密に連携していくことを確認しました。

こうした中、心配されているのが女子教育への影響です。日本リザルツが応援している教育のためのグローバルパートナーシップ (GPE) はジェンダー平等に配慮した教育支援を実施しており、アフガニスタンでの取り組みも積極的に実施してきました。最新の情報だと、すでに今回の混乱で400万人の子どもが学校に通えなくなるなどの影響が出ているという話もあるようです。

私たちも情勢を注視していきたいと思います。

子どもの居場所

子どもの間でコロナ感染者が増える中、夏休み明けの学校再開への不安が募っているようです。

特に心配なのが子どもの心のよりどころが減っているということです。国のまとめによると、去年1年間に全国で自殺した小学校から高校までの子どもの数が、昭和55年以来、過去最多になったそうです。

地域での交流場所は、子どもたちにとって、学校以外の居場所として大切な場所であります。私 の近所にあるカフェは、子どもたちが自由に地域の大学生と触れ合える場として提供されてい ます。こうした学校以外の居場所の大切さを身に染みて実感しています。

今の時期、コロナの感染症対策もそうですが、心の健康、子どもの居場所を作る活動がいかに難 しいかを感じました。

2021年08月23日

金融取引税は COVID-19 により国際法人税改革の次に浮上か>ITR 誌より

◎COVID-19 の猛威とともに財源として金融取引税(FTT)が注目される

COVID-19(新型コロナウイルス、以下コロナと略)が猛威を振るいはじめた昨年から、どの国も 医療や事業支援など莫大な対策費を余儀なくされ、赤字国債(債券)を大量発行しました。そして 問題はそのような赤字財政をどうファイナンスしていくかということで、そのリソースの有力 なツールとして金融取引税(FTT: Financial Transaction Tax)が挙げられ、議論されていました。

日本でも前年度には 60 兆円もの赤字国債を発行し補正予算を組みましたが、このままでは財政の持続可能性を大きく損なってしまう恐れも生じてきています。これに対し、現在政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会で活躍されている小林慶一郎氏 (東京財団政策研究所) など学者やエコノミストの一部から財政立て直しのため世界的規模での金融取引税(またはトービン税) 実施の主張もされました。

世界的には、欧州連合(EU)の 2021 年前期議長国であったポルトガルや米国のバーニー・サンダース上院議員らの FTT 実施に向けての動きがありましたが、実現に至っていません。もっともこれらの動きは主に国内政策への資金動員という性格のものですが、課税対象や税収の多寡いかんによっては途上国支援のための国際連帯税的な要素を十分持つことができます。例えば、G7など有力国で外国為替取引(通貨取引)へ共同で課税できれば、すぐれて国際公共財の資金源になります。

◎ITR 誌での FTT 小論の要旨

ITR(International Tax Review)誌に『金融取引税は反対がありながらも COVID-19 により、その可能性が高まっている』と題して FTT に関する現状と今後の展望について興味深い小論が載っていましたので、紹介します。以下、小論の要旨です。

- 1)世界的にコロナ禍対策による財政立て直しのために金融取引税(FTT)を求める声は高まっている
- 2) 実際、FTT の中の株式取引税についてはフランス、イタリアはじめ相当の国で行われており、その実施に困難性はない
- 3) が、FTT は OECD や G20 のような組織にとって優先順位は低いとのこと、現在の国際法人税のルール改革が優先されている。しかも、依然としてグローバル企業の反対も強い
- 4)とはいえ、「コロナにより必要になった収入を求める政府の窮状はこの税を採択することで 局面が変わるだろう… (今のところ) EU でさえもコンセンサスを得る事は大変だろうが、個々 の国々から変化を起こせるだろう |

◎ITR 誌での FTT 小論の全文(日本語・英語)

金融取引税は反対がありながらも COVID-19 により、その可能性が高まっている FTTs more likely due to COVID-19 although objections remain 2021 年 8 月 18 日 By Alice Jones

~各国政府はパンデミックの代償への支払策を探し求めており、金融取引税(FTT)を求める声は高まっている。しかし、論点が依然として残っている~

税務専門家が ITR に語った所によると、トービン税として知られている金融取引税(FTT)は COVID19により失った収入を取り戻す政府の計画の一環として、今後数年間でその可能性が高まってくる。EU が国家間レベルでの課税を協議している間、スペインなど個々の国々は単独で行動をとってきた。

「FTT は長い長い間、浮き沈みを繰り返しながらやってきたが、今後目にする機会が多くなるかもしれない。」と税務・財務・会計のフリーランスコンサルタントである John Bush 氏は語っている。

(以下省略)

食料問題と教育について

本日、東京オフィスにて、白須代表と有識者の栄養に関する話や、教育についてミーティングが 行われました。

また、8月23日付の公明新聞には、食料問題に関連した記事が掲載されています。





UNRWA と日本リザルツの電話会議

今月 11 日、日本リザルツと UNRWA でオンライン会議が行われました。

日本リザルツと UNRWA の協力は、2011 年に始まり、今も連携が続いています。 この会議は、日本リザルツと UNRWA の現状と今後の連携について確認する内容がありました。

日本リザルツでは、UNRWA への支援活動の一環として、世界各地で平和を願う凧揚げの企画を行ったことがあります。もちろんガザの子どもたちも参加してくれました。

私自身、日本リザルツでは、パレスチナ難民問題の担当として、ガザ情勢の情報収集をしたり、 議員の先生にお話を伺う機会をいただいたりしました。

インターンである学生の私が、UNRWA の担当者の方と直接お話できる会議に参加させていただき、一層 UNRWA やパレスチナ難民問題への理解が深まりました。

今後もアドボカシー活動を行い、パレスチナ難民問題の解決やガザの平和に、少しでも貢献で きるように頑張ります。

ミャンマー代表サッカー選手 難民申請が通る



先日 20 日、サッカーワールドカップ予選で来日し、帰国を拒否したミャンマー代表のピエ・リヤン・アウン選手の難民申請が無事通りました。

同選手は、5月に行われたミャンマーと日本の試合でミャンマー国軍に抵抗の意思を示す「三本 指」を掲げたため、帰国をすれば命を狙われる危険性がありました。

本来であれば審査に2年はかかるケースが多いようですが、日本政府が緊急措置を講じたため、 2ヶ月という異例の早さで申請が認められました。

申請が無事通り、内心ほっとしています。

過去にピエ・リヤン・アウン選手のことについて書いたブログもありますので、ぜひご覧ください。

マスク越しの会話

コロナ禍でマスク越しの会話が普通になりました。声が通りやすい私でも、マスク越しの会話と なると相手に聞こえにくい場合があるようです。特に電話越しだと聞き返されることもありま す。

先日の日本経済新聞に「マスク越しでも通る声」について、解説が載っていました。

マスクを着けて普通に話すと、声がこもり、聞こえにくくなりがちなので、下記に気を付けると 良いようです。

- 1. 口を通常の 1.5 倍大きく開けて発声する。
- 2. 腹式呼吸で強く息を出すと、通る声が出やすくなる。語頭で息を吐くように意識する。
- 3. 腹式呼吸をしないで大きな声で話すと音が不明瞭になり、かえって聞きづらくなる。

相手がはっきりと聞き取ることができるよう、参考にしようと思います。

運動靴出荷までの道のり

先日皆さんのお力添えのお陰で、無事に運動靴が横浜港に到着しました。 今週末の出港に向けて、コンテナ詰めが行われました。



ケニア当局の規定により、中古の運動靴や衣服をケニアに輸入する際には様々な手続きが必要です。

本日行われた燻蒸という作業は、海外からケニアに害虫などが持ち込まれるのを防ぐために行 われるものです。



一連の作業にあたっては、サンライトさん、コクテナさん、関東港業さんに大変お世話になりました。

皆さんの善意が詰まった運動靴。いよいよケニアに向けて出発します。

2021年08月25日

たんぱく質摂取の重要性

長引くコロナ禍で、外で体を動かす機会も減り、運動不足や、体力の減退も感じる方もいるので はないでしょうか。

8月、スナノミ靴の 207 箱の運び出しのために事務所やビルで作業を実施しました。 ようやく運び出しを終えましたが、筋肉疲労を感じ、湿布を貼りながら過ごしております。 お忙しいところ、快くご参加いただきました皆様には、御礼をお伝えさせていただきました。

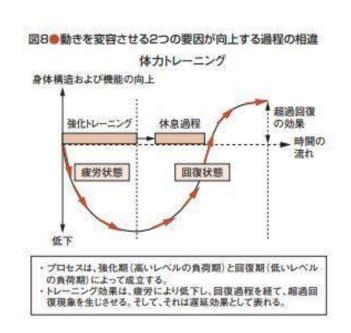
不測なエレベーター故障などのハプニングもありまして、急な力仕事で、相当キツイ作業ではあ

ったのではないかと感じております。

配送業のお仕事をされているボランティアの方々は、さすがにプロといった感じで、疲れを感じさせず、差し入れさせていただいたおにぎりもペロリと召し上がっていました。特製のおにぎりには、体力回復のために、玄米やビタミンと白米を混ぜてみましたが、これが好評でした。



ところで、筋力トレーニングで、超回復のメソッドという概念はご存じでしょうか?



トレーニング後2、3日は休息をとり、その間に、筋肉量が増加します。栄養バランスは休息と

トレーニングの量を考えながら、量に比例して摂取すると効果的だそうです。



(日経新聞8月23日より)

コロナ禍では女性も積極的にプロテインを飲んでいるようです。

忙しいときや、ちょっと食欲がないなと思うときでも、気軽にミルクに混ぜたり、バナナとスム ージーにすると、栄養摂取が可能のようです。

疲れたときに、ゴクっと栄養ドリンクを一飲みして頑張ろうとするよりも、気軽に続けられてと てもおすすめです。

私も大袋のプロテイン粉末を買ったので、こちらをせっせと飲んで、筋肉疲労の回復を待ちつつ、 ストレッチをこまめにしています。

靴は、今週横浜港から出港予定です。

ハイチ地震 続報

8月24日の朝日新聞に、ハイチで8月14日に発生したマグニチュード7.2の地震に関して、続報が掲載されていましたので紹介させていただきます。



政府発表によると、死者は 2,000 人を超え、10,000 人以上がけがをしているそうです。 記事には、地震で大きな被害がでた南西部の街ジェレミーで、現地の方へインタビューした様子 が報告されていました。

インタビューに応じてくださったフランソワさんは、地震でれんが積みの自宅が崩れ、がれきに埋もれたが、近所の人たちによって助け出されたそうです。しかし、病院も被さいしたので、何の処置も受けられず苦労したようです。そのうえ、水も食料もない状況が続いています。

ハイチのアリエル・アンリ首相は 20 日、米州機構による会議にオンラインで出席し、「70 万人が緊急支援を必要としている」と訴えた。国連児童基金(UNICEF)のハイチ代表は地震で被害を受けた 5 歳未満の子ども 16 万 7 千人を含む 38 万 5 千人を支援するために、1,500 万米ドル(約 16 億円)が必要だとし、協力を呼びかけています。

2016年2月の日本リザルツのブログには、前回のハイチ地震から6年たっても、テント生活を強いられている人たちが6万人いると言われていると書かれていました。その方たちの安全も心配です。

すでに、米国や日本から支援物資も到着しているそうです。早く世界から支援の手が差し伸べられることを願っています。

全寮制女子校教育継続のためアフガニスタン脱 出

アフガニスタンでは緊迫した状況が続き、諸外国の輸送機により、アフガニスタン人と外国人の 国外退避が行われています。

読売新聞によると、アフガニスタン唯一の全寮制女子校の生徒ら約 250 人が出国し、新学期を アフリカのルワンダでスタートさせるそうです。



学校側は、タリバンの女性の教育に対する懐柔姿勢を信用せず、首都陥落直後に脱出しました。 アフガニスタンを離れる際には、学校に保管されていた生徒の記録を焼却したそうです。 学校の設立者は、状況が許せばいつかアフガニスタンに帰還したいと話しているそうです。

国連児童基金(UNICEF)によると、現在約 400 万人の子どもが学校に通うことができない状況にあり、そのうちの 6 割が女子生徒となっています。

引き続き、アフガニスタンに残されている数百万人の女子生徒に関する状況を注視していきた いと思います。

河野太郎議員、最新刊『日本を前に進める』で しっかりと「国際連帯税」を記述



河野太郎議員の最新本、『日本を前に進める』(PHP 新書)が本日発売されるということで、街の本屋さんに出掛けました。もちろん、私の関心はこの本に国際連帯税がしっかりと記述されているかどうか、でした。

それは期待に反せずしっかりと述べられていました。「第三章 新しい国際秩序にどう対処するのか――安全保障・外交戦略」の「何のための ODA か」で (P104~105)。

【記述の要旨】

SDGs を達成するためには年間 2.5 兆ドルもの資金が不足している。ODA だけではとうていギャップを埋められない。グローバリゼーションの光が当たっている場所から手を差し伸べるべき。例えば、世界中の莫大な為替取引に 0.0001%くらいの「国際連帯税」をかけ、その税収を直接国際機関に入れ、その国際機関が緊急の人道支援を行う。

外務大臣時代この課題を議論してもらうための有識者会議を立ち上げた。また国際的に議論するため「開発のための革新的資金調達リーディング・グループ」の議長国に就任し、国際社会における議論をリードした。■■

河野議員の国際連帯税に関する所論の背景等については、次のメールで報告します。

日本を前に進める(PHP 新書)

目次

第一章 政治家・河野太郎の原点

第二章 父と私――生体肝移植をめぐって

第三章 新しい国際秩序にどう対処するのか――安全保障・外交戦略

第四章 防災 4.0

第五章 エネルギー革命を起爆剤に

第六章 国民にわかる社会保障

第七章 必要とされる教育を

第八章 温もりを大切にするデジタル化

モデルナ製ワクチン 異物混入



and instructs deviated at $\nu t - \nu$ coefficient measurement.

今朝の日経新聞(2021年8月27日掲載)の、「モデルナ製ワクチン 異物混入」という、見出しの記事が目に入りました。

今週末、大規模接種会場で、モデルナ製を接種する身だった私にとっては、少し心配なニュースです。

記事によりますと、日本向けのモデルナ製ワクチンは、スペインで製造されているそうです。 8月中旬以降から、武田薬品工業に該当ロットを接種していた5都県8会場より報告があり、26日に厚労省は、該当のロット番号のワクチンと、同時期の同一生産ラインで製造された2つのロット番号のワクチンの使用を停止させているそうです。

尚、同省では、該当以外のロット番号のモデルナ製ワクチンに関しましては、問題が無いとしています。

コスト重視のグローバル競争の時代ですが、ワクチン供給においても、クオリティーコントロールの問題について、製造現場での責任が問われることは、言うまでもありません。

2021年08月28日

ワクチン接種会場の様子の報道

昨夜の NHK ニュースで渋谷のワクチン接種会場の様子が報道されていましたので、以下にご紹介させていただきます。

本日 28 日、東京都では 3,581 人の新型コロナウイルスの新規感染を確認し、重症者は 297 人と 過去最高を記録しています。

こうした中、コロナワクチンの接種を希望する人たちは、まだまだいます。

若年層向けに設置された渋谷のワクチン接種会場では、想定を超える人が訪れたことで、接種が 抽選方式に変更されました。

本日 28 日の朝早くから大勢の人たちが訪れて長い列ができたため、予定より 40 分ほど早く抽選券の配布が始まりました。

都によりますと、列の最後尾は一時、およそ1キロ離れたJR原宿駅の近くまで達したということです。

若い世代の感染者が増え続けているので、若年層にも不安がまん延しているようです。

私も20代のひとりとして、感染の不安は勿論ですが、突然ワクチンが接種できなくなる状況が発生して、混乱が起きないか心配です。また、大学の授業や就活などに支障がでないか気になっています。若者も含めた、一日も早いワクチン接種の普及を願います。

2021年08月31日

IDA20 次增資会合

新型コロナウイルスまん延が依然として、世界各国で深刻な問題となっています。こうした中、世界銀行はコロナ対応などにおいて、最貧国を支援するため国際開発協会(IDA)の第 20 次増資(IDA20) 交渉を前倒しして実施しています。IDA20 は 2021 年 12 月の合意を目指して交渉されており、2022 年 7 月から 2025 年 6 月を対象期間とする政策・資金パッケージになります。

IDA は、世界の最貧国の貧困削減、格差是正、生活水準向上などのプログラムに融資する世界銀行のグループ機関です。173 か国が出資し、世界の74 の最貧国に最大規模の融資や贈与などの資金援助を行っています。日本は最大級のドナー国です。

ちなみに茂木大臣は先日の教育サミットにおいて、12月に日本でIDA20次増資会合が開催されることを発表。IDA、世界銀行と GPE との連携を更に図っていくことを強調されています。

増資会合に向けた動きはこちらでも注視していきたいと思います。